

牛久：学校周辺に見る自然

第27号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2011年7月23日発行

＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その5. バッタの幼虫＞

7/6、ひたち野うしく小3年生の水辺公園観察の続き。今回はバッタやカマキリの幼虫たちです。

1. ショウリョウバッタ (バッタ科)



明るい草原にふつうに見られ、地上にすることが多いので、皆さんが捕まえやすいバッタの一つです。人間だけでなく他の動物にも

見つけやすいようで、カマキリやカナヘビなどに捕まっているのをよく見かけます。イネ科の草の葉が大好きですが、けっこういろいろな草の葉を食べるようです。写真のように幼虫のときから緑色型と褐色型とがありますが、体色はすんでいる場所によって、脱皮のたびに変わるそうです。卵は地中に生まれ、冬を越し、翌年6月ごろに孵化します。私のいなかの方では、飛ぶときの音からでしょう、「キチキチバッタ」と呼ぶ人が多いです。次の2～4も含め、写真に写すため手に持っていてくれたお友だち、ありがとう！

2. クルマバッタ (バッタ科)



こんなに小さくても、体の模様や背中がもり上がるなど、特徴をもっています。やはり緑色型と褐色型がいて、写真は褐色型。後翅の黒い帯模様が、飛ぶときに車輪のように見えるところからついた名だそうです。パタパタというような羽音もめだちますね。やはりイネ科の草の葉が好き。バッタの仲間もカマキリの仲間も不完全変態、翅の有無以外は成虫とよく似ていますね。

3. コバネイナゴ (イナゴ科)



田んぼや池の周りなどの湿った草原で、最もよく見かけるイナゴの仲間でしょう。イネ科の草を好み、イネの害虫として有名です。が、地方によってこれを佃煮にして食べる場所もあります。タンパク質豊富で、栄養価は高そうですね。緑色の体色はイネ科の草に似て保護色になるようです。卵で冬を越し、年1回発生します。

4. オオカマキリ (カマキリ科)

バッタやチョウなど、いろいろな生きた昆虫を食べます。上にあげたバッタ科やイナゴ科の仲間は草の葉を食べますが、カマキリの仲間は生きたエサしか食べません。家で飼うときは、わりばしなどでエサをつまんで目の前で動かしてやると飛びついて食べます。草原や林のはじなどで、葉の上にとどいてエサを狙っているのをよく見かけます。交尾のあと、メスがオスを食べてしまうことが多いそうです。秋～春先に卵のうは見たことあると思いますが、卵で冬を越し、年1回発生します。



【理科支援員 宮内】